

## 投 稿 規 程 (1991年4月改訂, 1993年3月一部改訂, 1998年10月一部改訂, 2003年4月一部改訂, 2004年6月一部改訂, 2005年10月一部改訂)

### 1. 投稿資格

特定非営利活動法人日本火山学会の維持会員および学会員は会誌「火山」に投稿することができる。共著の場合少なくとも一人は維持会員または学会員でなければならない。ただし編集委員会が認めたものはこの限りではない。

### 2. 投稿原稿の種類

投稿原稿の種類は, 論説 (Original article), 総説 (Review), 寄書 (Letter), 討論 (Discussion), 解説・紹介 (Scientific Communication), 書評 (Book Review), 編集委員会の依頼による投稿などとし, 和文または英文とする。

### 3. 原稿の書き方

原稿の書き方は投稿細則にしたがう。投稿規程・細則に違反する投稿は, 査読の前に体裁を整えるよう勧告をうけ, 返却されることがある。

### 4. 投稿の手続き

投稿原稿には, 投稿者の連絡先, 原稿・図・表の枚数, ページ超過の場合の処置および印刷に際しての希望事項 (アート紙の使用など) を明示した投稿用紙をつけること。投稿原稿はオリジナルにコピー2部 (A4版) をそえ, 封筒に「火山原稿在中」と記し, 下記に送付すること。

〒113-0023 東京都文京区向丘2-8-7 crest 本郷202

特定非営利活動法人 日本火山学会

ただし, 電子投稿を希望する場合は, 下記の電子メールアドレスに原稿および投稿用紙の PDF ファイルを添付することにより投稿することができる。この場合, 紙にプリントアウトした原稿の送付を必要としない。また, PDF ファイルは5MB以下とし, これを超える場合は分割して送信すること。

kazan@khaki.plala.or.jp

### 5. ページ超過の負担

投稿原稿の種類に応じてページ制限があり, 投稿細則14条にしたがって著者はページ超過の費用を負担する。

### 6. 特殊印刷代の負担

図および表の折り込み, 色刷り, アート紙などの使用に要する費用は著者が負担する。

### 7. 校 正

著者は責任をもって初校の校正を行い, 再校以後の校正は編集委員長に一任する。校正の段階で, 著者が著しく原稿を書き換えたとき, そのために生じた印刷費の増加分は著者が負担する。内容の著しい変更がある場合は, 再査読を行うためにその掲載を次号以降に延期することがある。

### 8. 別 刷

別刷は著者の負担とする。その代金は学会に支払う。ただし, 原稿受理の時点で著者が学生の場合のみは50部 (表紙なし) は無料とする。

### 9. 経理書類の請求

初校の際学会に申し出る。

### 10. 著作権

会誌「火山」に掲載された論説・総説・寄書・討論などの著作権 (著作財産権, copyright) は, 別途定める著作権規程に従い, 特定非営利活動法人日本火山学会が所有する。

## 投 稿 細 則 (1991年4月改訂, 1996年11月一部改訂, 1999年6月一部改訂, 2001年6月一部改訂, 2002年10月一部改訂, 2003年4月一部改訂, 2003年5月一部改訂, 2005年10月一部改訂)

### I. 和文原稿

1. 原稿はワードプロセッサを用いて A4 判の用紙にプリントアウトされたもの, または A4 判相当の PDF ファイル

とする。1 ページあたり 20 行程度、1 行あたり 25 字程度とし、上、下、左に 3 cm、右側に 6 cm 程度のマージンをあける。漢字はなるべく常用漢字、仮名は平仮名、外国語は片仮名または原語を用いる。英文原稿については II を参照のこと。

2. 論説は印刷物として未発表のものであって、火山学に関する著者自身によるオリジナルな研究成果をまとめたもの。
3. 論説の書き方は、和文表題、著者名、英文表題、ローマ字つづり著者名、英文要旨（600 語以内）、英文キーワード（5 語以内）、本文、引用文献、付録の順とし、脚注に著者の所属機関、連絡先を和文及び英文で、また、ローマ字つづり執筆責任者名および電子メールアドレスを書く。
4. 総説の内容は火山学に関する研究成果を総覧し、総合的にまとめたもの、および火山学の研究の現状あるいは将来への展望などにふれたもの。
5. 総説の書き方は論説に準ずる。
6. 寄書の内容は火山に関する速報、短報、意見などとする。
7. 寄書の書き方は論説に準ずる。ただし英文要旨は 400 語以内とする。
8. 討論の内容は火山に掲載された論説・寄書についての学術的な討論とする。
9. 討論の書き方は寄書に準ずる。英文要旨は付けない。編集委員会は討論原稿の掲載可否の判断を行い、討論者へ返答し原著者へ回答を求める。原著者からの回答が得られた場合は掲載可否の判断を行い、討論および回答を合わせて掲載する。
10. 解説・紹介の内容は火山学に関し本会員に有益な記事とする。
11. 解説・紹介の書き方は論説に準ずるが英文要旨は付けない。解説・紹介は編集委員 2 名が査読を行う。
12. 書評の内容は本会員に有益と考えられる火山学に関する単行本等の紹介記事とする。
13. 書評の書き方は寄書に準ずる。英文要旨は付けない。書評は編集委員 2 名が査読を行う。
14. 原稿の種類に応じてページ制限を設け、それ以上のページ数は超過ページとする。著者は超過した 1 ページあたり 7,000 円を負担する。ページ制限は刷り上がりページ数にして、論説・総説が 16 ページ、寄書が 6 ページ、討論が 4 ページ、解説・紹介は 6 ページ、書評は特に編集委員会が認めたものに限り 2 ページで通常は 1 ページ（あるいは本文 1000 字以内）とする。寄書については 8 ページを超える超過ページを認めない。書評については超過ページを認めない。著者は超過ページが確定したとき、超過負担金を学会からの請求に応じて納入すること。
15. 英文表題の単語の最初の文字は大文字とし、2 文字目以降は小文字とする（冠詞、前置詞、接続詞はすべて小文字。ただし、英文表題が冠詞ではじまる場合は大文字とする）。
16. 脚注は著者の所属機関・連絡先、本文中の短い説明、インターネット引用の場合の URL などとする。
17. 図、表の折り込み、色刷り、アート紙などの使用に要する費用は、学会からの請求に応じて納入すること。
18. 地名、人名の読みにくいものにはふり仮名を付ける。
19. 地名のローマ字綴りは原則としてヘボン式を用いる。訓令式を用いる場合はヘボン式を併記する。
20. 句読点は「,」「.」を用いる。
21. 数字は漢字を用いず、アラビア数字を用いる。
22. 欧文単語の分割は音節区分にしたがう。
23. 図はプリントアウトされたもの、または A4 判相当の PDF ファイルとする。縮図した後の効果を考えて、文字、記号、線などの大きさと調和に留意する。
24. 図の内容の大きさを示すには「何分の 1」としないで、縮尺を図中に書く。図の刷り上がり寸法を赤で余白に記入する。
25. 図、表の原稿は 1 図ごと、1 表ごとに、別の用紙とする。原図が大きい場合には縮小し A4 判に揃える。
26. 図、表の説明文にはなるべく英文を付ける。この場合、和、英併記でも英文のみでもよい。また、図、表の説明文は別の用紙にまとめて書く。
27. 図、表の挿入場所を原稿の右側欄外に赤字で示す。
28. 次の事項は投稿者が指定する。

ボールド字体、ゴシック字体 章・節名（謝辞、引用文献、付録を含む）、引用文献の巻、欧文単行本の表題など。  
 イタリック字体 引用文献の欧文雑誌名、変数および本文中の欧文雑誌引用の *et al.* など。  
 小キャピタル字体 ローマ字つづり著者名の姓の 2 文字目以降

上付き, 下付き文字 変数, 化学式など

イタリック字体は赤で1本の下線, 小キャピタル字体は赤で2本の下線, ボールド体, ゴシック体は赤で波線, 上付き, 下付きは∨∧により指定する。ただし, これらの字体や文字飾りは, プリントアウトされた文字の書式により示されるもので指定に代えることができる。

29. 引用文献は次の例にならって書く。

本文中で引用する場合, 同一著者が同年に書いた2つ以上の論文を引用する場合には年号の次に a, b, c, ... をつけて区別する。長編の論文, 単行本などの一部を引用するときは, 必ず引用箇所のページを付記する。複数の論文を引用するときは著者をアルファベット順にならべる。また, 共著者が2名のときは2名とも記し, 3名以上のときは最初の著者名・他(和文の場合), *First Author et al.* (英文の場合) のように記す。

例: Koto (1916b, p. 172) によれば

これらの研究(久野, 1960; Kuno, 1968, 1969; Macdonald and Katsura, 1962; 中村・桂, 1960; Nakamura *et al.*, 1966; 中村・他, 1966)

論文末尾に付ける引用文献リストは著者の姓のアルファベット順, 同一著者(共著者も含めて)のものは発表の年代順に配列する。筆頭著者が同一で, 単名の論文, 共著論文を配列する場合には, 単名論文(年代順), 2名の著者による論文(年代順), 3名以上の著者による論文(年代順)の順に配列する。各引用文献は著者の姓名, 発表年, 表題, 誌名, 巻, ページの順にならべる。

例: Koto, B. (1916a) The eruption of Sakurajima prior to 1914. *J. Geol. Soc. Tokyo*, **23**, 165–180.

Koto, B. (1916b) The great eruption of Sakurajima in 1914. *J. Coll. Sci., Imp. Univ. Tokyo*, **38**, Art 3, 1–237.

Macdonald, G. A. (1972) *Volcanoes*. Prentice-Hall, Englewood Cliffs, N. J., 510 p.

Macdonald, G. A. and Katsura, T. (1962) Relationship of petrographic suites in Hawaii. In *Crust of the Pacific basin* (Macdonald, G. A. and Kuno, H. eds), 187–195. *Geophys. Monograph* **6**, Amer. Geophys. Union, Washington, D. C.

中村一明 (1986) 火山とプレートテクトニクス. 火山, **30**, S1–S16.

なお, 著者の人数が10名を越える論文については, 引用文献リストにおいても, 筆頭著者の姓名のみを記し, 共著者の姓名を省略する方法を認める。

例: 鍵山恒臣・他 68名 (1995) 霧島火山群における人工地震探査一観測及び初動の読みとり一. 震研彙報, **70**, 33–60.

Kagiya, T., *et al.* (1995) 1994 explosion experiment in Kirishima volcano. *Bull. Earthq. Res. Inst.*, **70**, 33–60.

30. インターネット上の情報, 学会講演要旨, 会議資料(火山噴火予知連絡会資料など)の引用は, なるべく避けること。ただし, 原稿中の記述を補助するための参照や紹介など, 論旨そのものが立脚しないものについては, 編集委員会の承認のもとで行えることとする。インターネット上の情報の参照を行う場合には, その参照対象が, 当該原稿の出版時点以降十分な期間にわたって存在し続け, かつ掲載内容が固定的であることを必要とする。参照を行う際の記載にあたっては, 原則として公開出版物への URL 掲載の許可を web 掲載管理者等から著者が受けることとし, 単一の参照先については, ページファイル名を含めた URL, 複数ないし全体を参照する場合には当該ホームページアドレスを明記し, 当該ページの著作権者名とともに, 本文中あるいは脚注において引用することとする。

31. 編集作業を迅速に行うため, 投稿原稿の送付後に原稿の要旨を添付して投稿したことを下記アドレスへ電子メールにより通知することを推奨する。

kazan@khaki.plala.or.jp

32. 最終原稿

最終原稿はプリントアウトされたものを2部提出すること。最終原稿チェック用紙もあわせて提出すること。

本文についてはテキスト, Word のいずれかの形式の電子ファイルを必ず添付すること。

図・表・写真についても電子ファイルを添付することを推奨する。図・写真のファイル形式は, *Illustrator*, *Photoshop*, *JPEG*, *TIFF*, *PDF* とする。また, 解像度は 350 dpi 以上とする。表のファイル形式は *PDF* とする。これらの電子ファイルはフロッピーまたは *CD-ROM* のメディアで提出すること。

## II. 英文原稿

1. 英文原稿は語学的に難点の少ないものとし、著者の責任において完全を期する。
2. 英文原稿の場合、英文要旨（論説は 600 語、寄書は 400 語以内）と英文キーワード（5 語以内）の他に、原則として末尾に和文による表題、著者名、和文要旨（論説は 800 字、寄書は 500 字以内）をこの順序で付ける。
3. 一般的でない、または混同されやすい漢字の固有名詞（特に地名、地層名など）は、その英和対照表を和文要旨の末尾に付ける。
4. 英文原稿の行間はダブルスペースとし、上、下、左、右に 3 cm 程度のマージンをとる。
5. 上記以外は和文原稿の細則にしたがう。

## 「火山」原稿作成の手引き

この手引きは編集委員の編集経験に基づいて作成した。投稿者が投稿原稿を準備する際に、投稿規程・細則とともに参照して、編集しやすい原稿にしていただければ幸いである。

### 1. 全般的なコメント

- ・未完成的な原稿が投稿されることが多い。文章表現の不備、特に、英文など基本的な欠陥があり、査読と修正に時間がかかる原因になっている。
- ・本文中で引用されている文献で、論文末尾の文献リストから欠落していることがある。また、引用の仕方、文献リストの書き方などの不備・不正確な原稿が見受けられる。投稿細則を十分に参照すること。
- ・特に今まで投稿経験の少ない学生の場合は、投稿前に指導教員などに繰り返し査読してもらい、投稿原稿に不備がないよう心がけること。

### 2. 和文原稿

- ・難読地名のふりがなはやや付け過ぎと思うくらいが適当である。投稿者には常識的な地名も読者には不案内なことが多い。
- ・一つの文はなるべく短く、簡潔にする。日本語の原稿でも文法的に正しいか否かのチェックは行うべきである。
- ・後に続く文、節、章を引用する文章を使うべきではない。

### 3. 英文原稿

- ・文法チェックと綴りのチェックをきちんと行うこと。
- ・日本語論文の逐次英訳ではないこと。一つのパラグラフの中の文の構成は、まず **topic sentence** があって、論述が後に続くという英語流になるべきである。長谷中氏の地質学雑誌への寄稿（91 巻 10 号 746 頁、1985 年）などを参照。
- ・abstract（和文論説、寄書、総説も含む）には、論文で得られた重要な結論を明記すること。

### 4. 図版

- ・原稿を仕上げた段階で、図が適切な表現になっているかどうか、論旨を展開する上で本当に必要な図であるかどうか点検すること。
- ・文字や記号の大きさが小さかったり、線が細すぎる原図がある。投稿前に希望する刷り上がりサイズまで縮小コピーして、判読できるか否か、確かめること。刷り上がりで文字や記号の 1 辺が 1 mm 以上あること。
- ・地質図などでスクリーントーンを使用する場合、模様が細かすぎるものはうまく印刷されないことがある。また、類似の模様を複数使用するときにも、印刷時の縮小率を考えて選ばないと、お互いに区別がつかなくなることもある。
- ・一つの図として印刷すべきものが原稿では 2 枚以上になるときはレイアウトの指示を添えること。
- ・地図には方位の記号を必ず入れること。

### 5. 表

- ・表が本当に必要か否か、まず点検すること。本文で表を引用しながらその内容を論じていないことがある。もしも議論に不要なら表を付ける必要はない。逆に図に示された重要なデータの生の値が、表に示されていないために読者が利用できないことがある。

### 6. 写真版（フィルム使用の場合）

- ・白黒写真はコントラストが強めの方が情報を読みとりやすい。硬調の印画紙に焼き付けるか、あるいは野外の写

真ではオレンジのフィルター、顕微鏡写真では緑のフィルターを使用して撮影すると良い結果が得られる。

- カラー写真はポジの原板も提出すると、よい刷り上がりが見られる。
- 写真の上に重ね刷りする番号は写真に直接書き込まずに、位置を合わせて別紙に書く。こうすると画像と文字を別々に製版できるので鮮明な仕上がりになる。

7. しばしば引用される文献の名称および略記の例を次に示す。

名 称	和文略記	欧文略記
地質学雑誌	地質雑	<i>J. Geol. Soc. Japan</i>
地学雑誌	地学雑	<i>J. Geogr.</i>
岩石鉱物鉱床学会誌 (82 巻まで)	岩鉱	<i>J. Japan. Assoc. Mineral. Petrol. Econ. Geol.</i>
岩石鉱物鉱床学会誌 (83 巻以降)	岩鉱	<i>J. Mineral. Petrol. Econ. Geol.</i>
火山		<i>Bull. Volcanol. Soc. Japan</i>
地震		<i>J. Seismol. Soc. Japan</i>
東京大学地震研究所彙報	震研彙報	<i>Bull. Earthq. Res. Inst.</i>
American Journal of Science		<i>Amer. J. Sci.</i>
Bulletin of Volcanology		<i>Bull. Volcanol.</i>
Contributions to Mineralogy and Petrology		<i>Contrib. Mineral. Petrol.</i>
Earth and Planetary Science Letters		<i>Earth Planet. Sci. Lett.</i>
EOS, Transactions American Geophysical Union		<i>EOS Trans. Amer. Geophys. Union</i>
Geochimica Cosmochimica Acta		<i>Geochim. Cosmochim. Acta</i>
Geophysical Research Letters		<i>Geophys. Res. Lett.</i>
Journal of Geophysical Research		<i>J. Geophys. Res.</i>
Journal of Petrology		<i>J. Petrol.</i>
Journal of Physics of the Earth		<i>J. Phys. Earth</i>
Journal of Volcanology and Geothermal Research		<i>J. Volcanol. Geotherm. Res.</i>
Philosophical Transactions of the Royal Society of London, series A		<i>Phil. Trans. Roy. Soc. London, A</i>
Physics of the Earth and Planetary Interiors		<i>Phys. Earth Planet. Int.</i>

編 集 規 程 (1991 年 4 月改訂, 1996 年 11 月一部改訂, 1998 年 10 月一部改訂, 2003 年 4 月一部改訂)

1. 編集委員会は原稿が学会事務所に到達したことを確認するために、原稿に受付日を記録し、著者に通知する。
2. 編集委員会は、原稿が投稿規程に著しく違反していると認められるときは、査読前に著者に対して原稿を返却し、体裁を整えるよう勧告することができる。
3. 編集委員会は投稿された原稿に対して適当な査読者を選定し、原稿の査読を依頼する。
4. 原稿の審査は編集委員会の責任で行う。論説、総説、寄書および討論は火山学に関しオリジナルで価値ある結論を含むと査読者が判定し、それを編集委員会が認めた場合に掲載される。
5. 編集委員会は査読者の助言に基づいて原稿の修正を求めることができる。
6. 編集委員会は投稿細則に違反する部分について、著者の承諾なしに、修正することができる。
7. 編集委員会は掲載不相当と認めた原稿について、その理由を明らかにした文書を著者に送り、原稿を返却する。
8. 査読後の修正が行われ、原稿が編集委員会によって採用された日付を受理日とし、編集委員会はこれを記録するとともに著者に連絡する。
9. 原稿が査読結果とともに著者に返却されてから 3 ヶ月以内に改訂原稿が再提出されないときは、その原稿は取り下げられたものとして取り扱う。ただし、編集委員会は著者から期限内に再提出できない事情の説明があったとき、期限の延長を認めることがある。
10. 初校の校正は著者が行い、再校以後の校正は編集委員会が行う。

11. 原稿の長さには投稿細則にしたがって制限をおくが，編集委員会の依頼による原稿の場合にはこの制限が免除されることがある。
12. 原稿は原則として受理された順に会誌に掲載される。特別の企画のため，論文の掲載順序が必要である場合はこの限りではない。
13. 印刷後重要な誤りが発見されたときは，正誤表を掲載することができる。